



1. 2周年を迎えた国際核融合エネルギー研究センター

この7月で国際核融合エネルギー研究センターは2周年を迎えた。既にIFMIF/EVEDA事業チームにはEUからの研究者がGarin 事業長を含め6名（仏3名、スペイン2名、独1名）着任しており、この秋にはさらに2人増え、日本からの事業チーム員も増員される計画である。IFERC事業チームでは、荒木事業長が六ヶ所に着任し活動を開始している。7月21～23日には、管理研究棟大会議室での最初の技術会合（第1回核融合原型炉構造材料技術検討会）も開催され、約60名の原子力機構内外の研究者が参加した。なお、2周年を記念して日本原子力研究開発機構青森研究開発センターの管理部門、核融合研究開発部門、IFERC事業チームおよびIFMIF/EVEDA事業チーム合同でバーベ

キューパーティが開催され、陸奥湾のホタテ等に舌鼓を打ち親交を深めた

2. 新サイトでの施設の形がほぼ整う（図1参照）

現在、建屋の建設工事は順調に進捗しており、計算機・遠隔実験棟、原型炉 R&D 棟では建家の外装がほぼ終了し、内装工事が進められている。IFMIF/EVEDA 開発試験棟では、屋根が葺かれ、今後加速器室の内装や空調設備、電源設備等の設置が進められる。また、これと並行して東北電力の特別高圧送電のための鉄塔の建設もほぼ終了し、10月初頭に計画されているサイトへの66 kV/30 MVA電力供給（現在は6 kVの仮受電）の準備も着々と進められている。

（日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門）



図1 施設の建設が進む国際核融合エネルギー研究センター
（平成21年8月25日撮影）